

令和6年度第1回地元協議会「会議録」

日 時：令和6年4月22日（月）午後7時00分～午後7時45分

場 所：多摩ニュータウン環境組合 201会議室

出 席 者（14名）

住 民 委 員：落合自治連合会（1名）、中組自治会（1名）、唐木田李久保自治会（1名）
町田市上小山田町内会山中地区（1名）、
ヒルサイドタウン鶴牧-6団地管理組合（1名）

地元関係者：ヒルサイドタウン鶴牧-6団地管理組合（1名）、リサイクルセンター長

組 合 委 員：事務局長、施設課長、計画担当課長(兼)出納課長、事務局4名

I 開会挨拶

- ・事務局長による挨拶

II 地元協議会委員 自己紹介

- ・参加者による自己紹介

III 令和5年12月15日に発生した電気事故について（中間報告）

- ・施設課長よりパワーポイントのスライド資料を使い（1）事故概要、（2）事故対応、（3）事故対策について説明、追加で発災当時の写真を使い事故内容や被害状況を説明。

IV 連絡調整（第2部）

- ・年度更新による委員の選出について、これから照会を行うことを説明。
- ・視察研修について、昨年度できなかったが令和6年度は実施することを説明。

V 閉会

<配布資料>

資料1 令和6年度第1回 多摩ニュータウン環境組合地元協議会 次第

資料2 令和5年12月15日に発生した電気事故について（中間報告）※スライド資料

<司会進行 計画担当課長>

I 開会挨拶

事務局長	○4月1日より着任の挨拶 ○本日開催の経緯について説明 本地元協議会は、毎年、年2回、8月と3月に開催しているが、昨年度の3月に予定していた町田市バイオエネルギーセンターの視察が、清掃工場の電気火災の影響により中止とした経緯があり、本年度は4月開催とした。 ○本会議の趣旨について説明 本日は、昨年12月に発生した電気事故についての報告を行うので、ご意見をお願いしたい。
事務局	各自、自己紹介を行った。

II 地元協議会委員 自己紹介

各委員	各委員、自己紹介をおこなった。
-----	-----------------

III 令和5年12月15日に発生した電気事故について（中間報告）

施設課長	<資料2（スライド資料）に基づき中間報告> ○中間報告は、事故概要・事故対応・事故対策の3章立てであり、スライド1からスライド20まで使って説明を行った。 ○スライド説明後に、事故当時の写真（抜粋）を画面に投影して、追加説明した。
	【質疑応答・答申】
落合自治連合会	環境組合には事故対応で、警察と消防と東京ガスも来ていたということだが、施設内で都市ガスを使っているのか。
施設課長	焼却炉の立ち上げ・立ち下げする際に、炉の温度を上げ下げする必要があり、そのため都市ガスを使用している。
地元関係者 （ヒルサイド タウン鶴巻）	○事故で、発電機がダメージを受けたということだが、本来のシステムの中で発電機はどのような役割を担っているのか。 ○多摩清掃工場のサプライヤー事業者はどこなのか。
施設課長	○通常、ごみを燃やしてその熱を使って、水を蒸気として、その蒸気の力でタービンを回して電気を起こしている。発電機はそのために使用している。 なお、発電した電気は、当清掃工場が動く電気として使い、余った電気は余剰電力として、電力会社に売電している。ところが、発電できない場合は、当清掃工場を動かすために、外部から電気を購入する必要がある。 ○事業者は、日立造船である。
計画担当課長	○補足説明となるが、多摩清掃工場は発電所ではないが、発電に利用できる熱源等が発生するので、有効活用ということで電気を生産している。発電のためにCO2が発生せずに、近隣の公共施設等へ余剰電力を供給することができ、活用している。
ヒルサイド タウン鶴巻	多摩清掃工場での事故発生前に、町田市の応援ごみを受け入れていたと思うが、多摩清掃工場での事故発生後、町田市のごみの受け入れはどうなっているのか。

施設課長	町田市清掃工場での火災を受けて12月から町田市のごみを当清掃工場を受けていたが、今回、多摩清掃工場の火災で受け入れないため、八王子市も支援を頂き、八王子市・多摩市・町田市の構成市間での連携を図った。
ヒルサイド タウン鶴巻	お互いにごみを受けられるということは、各市、余裕があるということか。
施設課長	余裕があったというわけではないが、今回比較のごみを受け入れて入れたのは八王子市の館クリーンセンター及び戸吹クリーンセンターであり、多摩市エリア全域と町田市の一部を受け入れてくれた。 館クリーンセンターの受入量の限界やごみが増える年末年始の対応のために、多摩清掃工場のピットの余力を計算し、短い期間で7回の搬入先の調整を行って対応してきた。 多摩清掃工場は、ごみピット（貯蔵所）が600t対応で大きくて、一時的に多く溜め込むことができたため、良かった。
計画担当 課長	補足説明となるが、多摩清掃工場は全国的にも特殊な組合であり、多摩市全域と八王子市と町田市の一部のごみを受け入れている。町田市と八王子市それぞれ清掃工場を持っているため、日ごろから情報共有や連携を綿密にとっており、定期点検の時期やどのように炉の運転をしているのかなどの情報をもとにして協力している。 たとえば今回、八王子市の清掃工場では整備中の焼却炉を急ぎ整備して焼却炉を立ち上げ、多摩清掃工場のごみを受け入れた。 余裕があるというよりも、工夫と協力により3市のごみの収集を滞らせる事態を招かずに乗り越えることができたというのが今回の現状である。
ヒルサイド タウン鶴巻	焼却炉が3基あるとのことだが、それぞれのピットは200tということか。だとすると、スライド13（P7）に書いてあるピット残量3615tというのは、どのように理解すればよいのか。
施設課長	設計上焼却炉は3基だが、ピットは1つであり3炉に対応する大きいピットである。ピット残量については受け入れ期間に発生したごみのうち3615tのごみを溜めたということである。
委 員	ピットにごみが溜めると、匂いが外に漏れることはないのか。
施設課長	当清掃工場でも通常運用の中で、1ヶ月半程度、焼却機能を停止して機械の整備などを行うために、ごみを溜めこむことがある。そのため、臭い成分を活性炭脱臭の活性炭を通して出すという仕組みを備えていた。事故の期間は、活性炭脱臭機能をフル稼働していた。 通常の焼却時は、臭い成分はごみと一緒に燃やしている。そうすると、900℃の燃焼により臭い成分は分解されて、煙突から排出されることとなる。
地元関係者 （ヒルサイド タウン鶴巻）	停電した時に大変だったということだが、日ごろから停電の対策はしていたのではないか。
施設課長	日頃から非常時の準備はしている。 ただ、今回主に制御系電源を司る保安動力が損傷を受けてしまったため、想定外の影響を受けてしまった。停電時に作動する非常用発電機が機能しなかった。

	通常の地震では、停電しても非常用発電機が動いて、安全に停止される。
委 員	多摩清掃工場の事業者である日立造船の意見はあったのか。
施設課長	保安動力をバックアップして二重化するという手法もあるが、費用が高く、すぐに故障してしまう物ではないので、そこまでは設計思想に入れてなかったと聞いている。

IV 連絡調整

計画担当 課 長	1. 年度更新による委員の選出について 今回の地元協議会は、前年度の委員に集まってもらったが、今後4月以降自治会管理組合で新年度の委員の推薦をこちらより依頼するので、ご協力いただきたい。 2. 令和6年度 視察研修について 令和5年度はできなかったが、令和6年度は年明け来年に近隣施設の視察研修を行う予定である。
-------------	--

(閉会時刻 午後7時45分)